



地域組織の確立で  
会員間の絆の促進を

### 退職者 連合

## 「ジェンダー平等推進の学習会」開催

日本退職者連合は3月5日、日本人として初めて国連女性撤廃委員会の委員長を務めた弁護士小林陽子氏を講師に迎え、東京の連合会館大会議室で「ジェン



ンダー平等推進のための第13回学習会」を開催。参加者は会場参加120人、Web参加80人の200人で、JAMシニアクラブからは大山会長、増子、河野両女性幹事が参加しました。林陽子氏の講演「批准から40年―女性差別撤廃条約と日本―」の概要を紹介します。最初に1979年に国連総会で女性差別撤廃条約が採択され、日本は80年に日本政府が条約に署名し、男女雇用機会均等法の制定など条約に合わせた国内法の整備を進め、85年に条約を批准して均等法が差別をなくす努力義務から禁止規定へ強化され、間接差別の規定が導入されるなどの変化を

家族法の改正や刑法の改正などを含めて述べられました。

次に2024年10月の国連女性差別撤廃委員会での批准から第6回目となる日本の報告書審査が行われ、60項目に及ぶ勧告が行われたことを報告し、その中で特に重要だと思われる次の4点が指摘されました。

①包括的的反差別法、独立した人権機関、個人通報制度の受諾など基本的な人権の基本構造（インフラ）が欠如。②差別的な法律が残存していること（夫婦同姓の強制、皇室典範の男系男子主義等）。③セクシュアル・アブザ・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康・権利）の課題が多いこと。④意思決定の場に女性の代表が過小であり、それを是正する

仕組みがないこと。

これら4点を挙げ、男女間賃金格差の国際比較と政治参画の世界の大勢としてジェンダー・クォータが下院にある国が100カ国以上、上院・地方議会を含めると130カ国以上と紹介されました。

続いて「ジェンダー平等のためのトライアングル（3つの道具）」として①包括的的反差別法、②国内人権機関、③個人通報制度を取り上げ、その重要性を強調していました。①包括的的反差別法では、日本が批准していないILO（国際労働機関）第111号条約が参考になると述べました。第111号条約は、雇用及び職業における人種、皮膚の色、性、宗教、政治的見解、国民的出身に基づく差別

別待遇の除去を目的としています。②国内人権機関とは、裁判所とは別に政府から独立して人権侵害からの救済と人権保障を進めるための国家機関（行政機関）です。③個人通報制度とは、人権侵害を受けた個人が国内での手続を尽くしたときに、国連女性差別撤廃委員会に申し立てができる制度で、1999年に国連で採択された女性差別撤廃条約の選択議定書に規定されています。日本はこの選択議定書を批准していません。

最後に地方議会にできることとして、女性差別選択議定書（個人通報制度）批准へ向けた地方議会での意見書採択があり、24年10月現在で350以上の地方議会が意見書が採択されているとして、その取り組みを呼び掛けていました。（会長大山勝也記）

### 主張



長野シニアクラブは会員の減少等で大変な時ですが、活動が停滞しないよう、JAM甲信の皆さんにもご協力をいただきながら頑張る活動を続けてまいります。

今、内外の情勢をみると国内は金権政治を続けてきた自民党が裏金問題で国民の不信をかい、自公政権は過半数割れとなり国会運営も綱渡り、一方海外を見れば本来世界の国々をまとめていく立場にある三大国のトップの政治指導者が国際ルールや法を無視し、国の力（軍事力、経済力等）と

権力をバックにしてそれぞれ勝手気ままな振る舞いで、世界中に平和不安と経済不安を拡散しています。

さて、私たちの差し迫った当面の課題は7月の参議院議員選挙です。何としても郡山りようを当選させ国政に送り込まねばなりません。JAMは働く者の生活環境、権利を守り良くするために、働く者の声を直接国政の場に反映することが大切だと

### 組織力が試される参議院選挙 総力を結集し郡山りよう候補の必勝を！

長野シニアクラブ会長 三井正二

し、JAM結成5年目に津田弥太郎参議院議員を誕生させ、12年の長きにわたり働く者の声を国政に反映してきました。そしてその間、津田弥太郎議員は働く者の代表の名に恥じない活躍をされ、多くの業績を残されて2016年に勇退されました。その後JAMは2回にわたって参議院選挙を

闘ってきましたが、残念ながら2回とも惜敗、シニアクラブもその都度総会で決定し現役の皆さん方と闘いを共にしてきただけに受けたショックは大きいものがありました。7月の参議院選挙は過去2回惜敗し、悔しい思いをしてきているだけに絶対負けられない選挙で、組織の命運をかけた闘いであるといつても過言ではありません。

残された期間は2ヶ月余、シニア本部の集計によれば応援活動も目標に対してほど遠い状況とすることで油断は禁物です。残された時間はわずかで、もう一度家族を含め支持者の確認をして、声をかけをしていない方がおりましたら応援依頼の声をかけ活動をして、一人でも多くの応援者が増えるようお互い頑張りましょう。そして今度こそ郡山りようを必ず当選させ、働く者の代表として国会へ送りこもうではありませんか。

# 2025参議院議員選挙 JAM組織内候補予定者

## 「郡山りょう」決戦に向けて全国を駆ける！



JAM埼玉・基幹労連埼玉合同決起集会



JAM神奈川湘南地協いちご狩りレク



7月参議院議員選挙も残り3ヶ月を切りました。JAM組織内候補予定者「郡山りょう」は、「現場の声ではたらくを変えよう」をキャッチフレーズに、決戦に向けて全国各地を駆け巡っています。組合員、組合員OBの切実な労働現場や生活現場の声を国政に反映させるため、我々の代表「郡山りょう」を全力で支援していきましょう。



JAM大阪春闘総決起集会

4月17日(木)、2025年度JAM埼玉シニアクラブ会員交流会が14名の参加者で行なわれ、「両国周辺の散策」を楽しみました。両国は国技館で代表される相撲の聖地ですが、まずは国技館内の相撲博物館を訪れ、栃錦・若乃花など懐かしい歴代横綱の戦績など振り返りました。また、各訪問先をたどる途中には時津風部屋など相撲部屋が多く、相撲まわしが乾してある風情はやはり「相撲の街」を感じさせます。



**埼玉**  
東京・両国を散策  
大相撲／大震災／3・10空襲／北斎／吉良邸  
小泉茂 事務局長

東京都慰霊堂には、関東大震災と東京大空襲の犠牲者16万3000柱が祀られ毎年3月と9月に供養が行われます。参加者は戦後生まれの世代で、戦争体験はありませんが、展示されている資料からは当時の悲惨さがありありと感じさせられます。東京都民を標的にして殺戮した当時のアメリカは、現在のウクライナとガザ地区を攻撃するロシア・イスラエルを思わせます。二つの戦争の一刻も早い終結を願うばかりです。すみだ北斎美術館は2016年11月に開館した区立美術館です。世界的に有名な浮世絵師「葛飾北斎」本所界隈に設けられています。館内には、北斎の作品が多く展示され、外国人観光客も多く訪れていました。忠臣蔵で有名な吉良邸(当時の地名・本所松坂町)は2550坪と推定され、その広さに驚きを隠せませんでした。討ち入りを決行した赤穂浪士が入念な下調べを行なったことも無理からぬことと思われました。今回の両国街歩きは、歴史の重みと芸術の奥深さを味わった一日となりました。